

重点施策点検・評価表

2-1

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める。		担当課(館)
	① 大館の未来を切り拓くための総合的人間力(「人間的基礎力」「大館市民基礎力」「大館市民実践力」)の育成		学校教育課 教育研究所
	活動内容	第8次学力向上の提言5カ年(平成26年～平成30年)最終年である。最終評価をもとに、おおだて型学力推進委員会で第9次学力向上の提言を作成する。	
	点検評価	<p>■目標を上回る □目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満)</p> <p>各協議会の代表からなる「おおだて型学力推進委員会」が、5カ年の取組の成果を諸調査の結果から明確にし「第9次学力向上に係る提言」を作成。「共感的協働力を備えた未来大館市民を育成する『おおだて型学力』の確立」を、H31. 4月の市教育研究会総会で全教職員に、提言書を配付し、方向性について説明した。</p> <p>全国学力調査のアンケートから、この5年で「地域のために何ができるか考えることがある」「ボランティアに参加したことがある」「地域に関心がある」「人の役に立つ人になりたい」「夢や目標を持っている」などの意識を持っている小中学生の割合が、小中学生とも着実に伸びており、全国・県の平均を毎年上回っている状況である。ふるさとキャリア教育がしっかりと根つき、本市が目指す子どもの姿が具現化されていると評価している。</p>	
	課題等	第9次学力向上の提言(3カ年)の周知と現場の実践への指導をきめ細やかに、来年度の中間評価、再来年度の最終評価で成果と課題を把握していく。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等の意見	自己評価でも目標を上回ることができていてすばらしい。アンケートの内容が伸びていることは、人間力や未来大館市民の育成につながっている。プランナー、リーダーとしての先見性もすばらしい。この姿勢を継続して欲しい。	
	② いじめ・不登校問題の予防及びその克服のための支援体制の充実		教育研究所
	活動内容	いじめ防止基本法を浸透させる取組、いじめ・不登校調査の実施、関係機関との連携により、未然防止と早期対応をする。特に、不登校については、早期対応を全小中学校に徹底する。	
	点検評価	<p>□目標を上回る □目標どおり ■目標をやや下回る □目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満)</p> <p>いじめ、不登校の認知については、常々、児童の訴えや調査回答をそのまま報告するよう指示している。そのため、毎年、認知件数が多い。把握件数が高いことは望ましいが、H30年度には、いじめ解消件数が低く、解決しないままに年度を越す事案もあるのが心配である。不登校については、H29年度は87名、H30年度は89名となっており、横ばいの状態である。家庭の養育に問題があり、家庭ごと支援を必要とする事案も微増していることから、常に、関係機関と情報共有し継続して関わる体制を採っている。</p>	
	課題等	児童生徒の問題行動の背景に、家庭の養育が要因としてある場合には、長期にわたっての相談や支援を必要とする。学校の生徒指導面が安定しているだけに、問題の深刻さに気付くのが遅れる場合もある。「大館でも起こりうる」ことを前提に、きめ細やかな見取りと、丁寧な対応を一層心がけるよう、学校に伝えていく。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等の意見	社会を構成する最小単位は、家庭である。家庭の状況がよければ学校や地域、市町村が問題なく豊かな環境をつくれる。子ども、家庭の環境づくりは時間をかけないと難しい。一人ではなく、チームで対応してほしい。切り口となる先生を中心に取り組んでほしい。いじめの件数が多いことは、きちんと把握できていることだと思う。評価の「やや下回る」の裏には、関係者のたいへんな努力があると捉えたい。	

重点施策点検・評価表

2-2

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
2	地域学校協働活動を推進し、スクール・コミュニティーの形成を図る		担当課(館)
	① ふるさとキャリア教育を根幹とした特色ある学校経営の展開		学校教育課 教育研究所
	活動内容	ふるさとキャリア教育夢事業、ふるさとキャリア教育ステップアップ事業を活用して、各校の百花繚乱作戦をより充実・発展させ、地域全体を巻き込んだ教育活動にしていく。地域の学習材等の教育資源を活用した授業や起業体験活動の開発を支援、奨励し拡充していく。	
	点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満) 全小中学校が、夢事業(各校18万円)を活用して、地域との連携のもとに、特色ある百花繚乱作戦を展開することができた。H30年度、新たに立ち上げたステップアップ事業(応募型、30万円×3校)を活用した桂城小(花善とのコラボ弁当の開発・PR・販売)、成章小(陽気な母さんの店とのコラボ枝豆弁当の開発・PR・販売)、山瀬小(株式会社いしころとのコラボによるタケノコ和紙の製品化)で、活動を発展させることができた。応募からもれた扇田小や、CM作りの技術指導を探していた城南小には、プロジェクトを支援できる企業を紹介して、経費をかけずに児童の企画を実現する支援ができた。	
	課題等	予算を有効活用して、各校の百花繚乱作戦を充実させる支援を継続するとともに、9年目を迎えるプロジェクトの見直しや、連携する企業や団体を拡大することで地域全体が参画していくようにする。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	働き方改革とプロジェクトの活性化のバランスが大事。やらされる仕事は、負担感を感じるが、「これをやりたい」の意欲が増幅されていることは、これまでの積み重ねの成果である。各学校での取組に対して、財政的なバックアップができていたことは前向きな姿勢を誘発する要因となっている。「目標を上回る」という評価も適切である。	
	② 地域に開かれた教育活動の取り組みによる元気の発信と地域貢献		学校教育課 教育研究所
	活動内容	企業博覧会の開催等、地元企業と連携したキャリア教育を推進する。保護者を含めた市民へふるさとキャリア教育の理念や各校の百花繚乱作戦を情報発信し、浸透させる。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満) 北秋田地域振興局と連携しながら、教育課程に位置付けた形で全中学生を対象とした企業博覧会を実施することができた。教育関係者以外の方々にも、「ふるさとキャリア教育」の理念を発信するため、まちづくり課のフォーラムや市議会議員への講話など授業以外の機会、学力向上フォーラムなど授業を参観できる機会を随時提供し、マスコミも活用した情報発信により、市民の理解がさらに進んできたと考える。	
	課題等	ふるさとキャリア教育の認知度は、上がってきているが、さらに各校の活動内容を積極的に発信する必要があると感じている。今後は、ふるさとキャリア教育で育った子ども達が、社会人となり、どのような成果や実績となっているのか、その具体的な姿を把握し、市民に知らせていくことも考えていきたい。	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	企業博覧会によって、子ども達と企業の双方向性ができるようになった。どちらにもプラスになっていると思われる。このことを数的に捉え、客観的な成果として示せればよい。今後は楽しみである。	

重点施策点検・評価表

2-3

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
3	共感的・協働的な学び合いへの進化を図り、「学びの交響学」を創造する		担当課(館)
	① 「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を鍛え、「おおだて型学力」育成に向けた授業改善		学校教育課 教育研究所
	活動内容	授業改善に向けた研修会を充実するとともに、学校訪問による適切な指導・助言を行う。また、教育専門監、授業マイスター、コア・ティーチャーを活用した師範授業の提供、教育研究所による若年教員への授業支援などの取組を充実させる。学力向上フォーラム、育ちと学び支援事業フォーラムを教職員の資質向上の絶好の機会として、一層の授業改善を進める。	
	点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)	
		教育専門監、授業マイスターを活用して、授業力向上支援を行った。また、育ちと学び支援事業フォーラムでは有浦小学校の低学年の授業公開、学力向上フォーラムを全小中学校が授業公開したことにより、各校の授業改善が進み、「共感的協働的な学び合い」が具体的な授業、子どもの学びの姿になった。当日の公開研究会では他県の教育関係者から、教師の授業力、コーディネート力の高さ、子ども達の主体性、仲間への共感性に高い評価を得た。	
	課題等	仲間と協働しながら新たな価値を創造する学びの実現に向けて、専門性の高い教材観や授業観に基づいた教師のコーディネート、学習集団で個を高める支援、学びを価値付ける振り返りの場面等に視点をおいた共同研究を一層推進する。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	学力向上フォーラムで、全小中学校が授業公開できたことは、市全体の大きな財産である。県内外の教員からの評価も高い。どの学校に所属しても「おおだて型学力」の力量を高めるチャンスがある。評価が高いのも納得できる。	
	② 各校の研究実践を県内外に発信・交流することによる評価及び改善		学校教育課
	活動内容	新規の「おおだて型教育発信事業」を推進し、教育アテンダント2名を活用し、大館市の教育ブランド48を発信する。各種研修や留学、教育実習、サマースクールの受入等のメニュー開発、誘致活動を行い、試行としての受入を行う。学力向上フォーラムを、外部からの評価の機会と捉え、成果と課題を検証する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)	
	教育アテンダントは応募者がなく、8月から1名のみでの採用となった。予定していた教育実習生の受け入れ(共栄大2名)、サマースクール(都内から親子10組)、教育ツーリズム(愛知教育大20名)を実現することができ、大館の教育ブランドを全国に広めつつある。H30年度は、教育視察で、40都道府県から1442人の訪問があり、特に、学力向上フォーラムにおいては、県外から489名が大館に2日間滞在している。全国からの参加者の感想により、受け入れた各々が、自分達の実践や授業力が高く評価されていることを肌で感じ、自信をつけていることが大きな成果である。また、県外で大館の教育を発表する機会が22回(対象者2733人)あり、おおだて型教育を発信することができた。		
課題等	教育アテンダントが2名体制となることから、積極的に大館の教育を発信して、教育の産業化につなげていく。特に、ホームページに視察の受入を盛り込み、各学校の既存の研究会へ参加してもらうことにより、全国の教育関係者との交流が生まれ、受入校の校内研修の充実、授業改善につながるものと期待している。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	
学識経験者等の意見	大館市の教育に関心を寄せられる環境・準備ができている。手をこまねいているだけだと、また行きたくなくなるということにはならない。市外から来られた多くの先生方の意見が、授業改善や大館の教育の強化にもつながっていく。また、市外へ出かけ講話することは、その準備等をする中で力が付く。また、いろいろな教員に機会を与えることで全体の力量が高まる。オファーがいっぱい来ることはうれしい。		

重点施策点検・評価表

2-4

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
重点施策		
4	次期学習指導要領を見据えた教育環境や基盤の整備を推進する	担当課(館)
	① 未来大館市民としての資質・能力を育成するための体制を構築する	学校教育課 教育研究所
活動内容	小学校は平成32年度、中学校は平成33年度の完全実施を目指し、英語教育、道徳、プログラミング教育等に対応するため、関係機関と連携した推進体制を構築したり、カリキュラムの作成や教職員の研修を実施したりする。小学校外国語活動では、外国語活動支援員の配置、大館オリジナル教材を活用する。また、ふるさとキャリア教育の新たな視点として導入する経済教育の試行を各校で進める。	
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 小学校外国語は、小学校英語推進アドバイザーを中心に「大館スタンダード」としてカリキュラム、指導案、ワークシート作成と、実施のための研修会を行い、全小学校の指導内容に差が生じない体制を構築している。また、学級担任の負担を軽減するために、全学級の授業に、外国語活動支援員を派遣している。 経済教育は、進路指導協議会員が校内推進リーダーとなって研修を受けており、学力向上フォーラムでも経済教育の授業を公開することができた。 道徳は、市教育研究会が中心となり実践を進めており、小中学校とも教科になっても順調に授業が実施されている。 プログラミング教育は、授業を提案している企業主催でワークショップを開催し、本市で可能な授業を模索している。	
課題等	プログラミング教育は、人型ロボットを活用して、モデル授業を行いながら、本市の児童生徒の実態に合ったプログラムを開発する。 経済教育は、大館版テキストを活用して、小学校高学年～中学校に対して実践する。 その他、新たに、様々な教育を取り込むことが求められているが、現場が負担にならずに進められよう市教委がリーダーシップをとっていく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	新しく導入される教育に対して、先手を打って対策を講じている。 どの教科には何が大事かをしっかりと押さえて情報提供をしてほしい。また、分からない人の気持ちに寄り添った指導ができるようにしてほしい。 道徳の評価は、よいか、よくないかではなく、子ども達のよさを全体的に認めながら評価してほしい。	
	② 学校と行政の連携により、個性や特性が発揮できる教育環境や教職員の職場環境の整備	学校教育課
活動内容	第2次学校教育環境適正化委員会により、統合について基本方針を検討し年度末には提言を作成する。(学校の施設設備、プール、給食施設の検討も含む)	
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 1年半をかけ、弘前大の北原教授を委員長にした学校環境適正化委員会が協議の結果、提言をもらった。委員は、様々な立場、地区の代表であり、少子化の現状を把握しながらも、単に人数の多寡のみによる統廃合はせず、小学校は地域コミュニティの核としての役割から極力存続する、中学校は適正な学びの集団を確保するための統廃合や学区の再編成などの可能性、校舎や設備の老朽化への対応も同時に計画していくこと、不登校対策として、小規模集団での生活を選択できる可能性も残していくなどの提言がなされた。	
課題等	学校教育環境適正化委員会の提言をもとに、教育委員会内に準備委員会を設置し、「学校教育環境適正化計画」(素案)を作成し、基本方針を明らかにしていく。また、給食関係施設は老朽化による現状を踏まえ、早い段階で給食センターに統合するよう検討していく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	統廃合は、人数が多いか少ないかのみによって行わないようにしたい。 小学校は、地域の中心。保護者の思いもある。時間をかけた方がよい場合が多い。毎年のように保護者に働きかけていくことが大事。将来の子ども達にとってベターかどうかを判断材料にしてほしい。 難しい課題であるが、がんばってほしい。	